

令和4年度 第71次印旛教育研究集会
国語「話すこと・聞くこと」分散会提案資料

研究主題

自ら考え、表現する「力」を高める国語科指導の在り方

～話す・聞く力を育てる言語活動を通して～



佐倉市立寺崎小学校

<目次>

I 研究概要

II 授業実践

○1年生

○3年生

○5年生

III 本年度の成果と課題

○意識調査からの結果から

○仮説に関わる成果と課題

I 研究概要



令和4年度 研修計画

I 研究概要

1 研究主題

自ら考え、表現する力を高める国語科指導の在り方

～話す・聞く力を育てる言語活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

近年、飛躍的な技術革新、グローバル化の進展により社会の構造は著しく変化し、予測が困難な時代となっている。このような社会の中でこれからの社会の担い手となる子どもたちには、他者と協働して問題を解決していく力や情報を取捨選択する力、複雑な状況変化に対応する力が求められている。社会の変化に主体的に関わり、自らが生きる未来をどう創造していくか考え、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身につけていくことが、一層重要となる。

中央教育審議会答申によると学校教育において小学校の国語科では、文章の構成を理解すること、表現の工夫を捉えること、文章を要約すること、複数の情報を関連付けて理解を深めることに課題がある。このように、文章の理解について課題を多く抱えるその根底には、小学校低学年における語彙力の質と量に大きな違いがあると指摘されている。語彙力は全ての教科の学力の基盤となる重要な要素である。新学習指導要領の中で国語科が定める目標には「国語で正確に理解し、適切に表現する資質や能力を育成する」と示されている。そのため語彙の量を増やし、質を高めて知識・技能を習得すると同時に、自分で考えたことや思ったことを文章化したり、文章の中で言葉の意味や使い方を理解したり、またそれを友達に伝え共有したりして表現する力をつけるなど、育成すべき力を相互に関連させながら指導していく必要がある。

これらを踏まえ、本校では考え表現する力を育成するために、語彙力をつけると共に、言語を駆使し、自分の考えをもつこと、それを伝え合うことを通じて、自ら考え表現する力を高めていきたい。

(2) 学校教育目標から

知・徳・体の調和のとれた心豊かなたくましい児童の育成

～かしこく やさしく たくましく～ (みんな なかよし)

本校の教育目標に掲げられた「知」は「最後まであきらめずに学び続けることができる子」、「徳」は「より良い生活をめざし、仲良く助け合い、安全に生活できる子」、「体」は「自分や友達の命を大切にし、健康な体づくりができる子」をめざしている。

これらの児童像をもとに、様々な手立てを使って、児童の成長をめざしていく。知・徳・体の全ての力を身に付けることが学校に求められる責務であるが、そのためには子どもたちが互いに関わり合うことなしにそれらの成長を望むことは難しい。本校の児童が抱える表現力の乏しさは、その成長を妨げる壁となっている。

表現力を高めるためには、国語科に限らず全ての教科、領域をはじめ、学校生活全般で自分の気持ちや考えを伝える活動をしていくことが必要である。そのために、それらを整理できるような思考ツールの活用や話型の提示等を行い、日々の生活の中で繰り返し訓練していくことが重要となろう。また、表現力向上のためには発信力と共に相手の話を聞くことも同じようにできなければならない。話し手の発信内容の中で何が大事なのかを聞き取り、それを基に、感想や意見を返すことを考える。そう考えると聞く力を磨くことも、表現力の向上のための大事な要素と言える。

以上のことを踏まえ、子どもたちの更なる成長のために、互いに関わり合う中で、認め合ったり、教え合ったり、励まし合ったりできる人間関係の構築に努めていきたい。安心して考えたり、表現したりできる環境づくりを行ってそれぞれの力を高めていきたい。

(3) 学校や児童の実態から

本校は、児童数470名、通常学級15クラスと特別支援学級5学級からなる創立から37年を迎える学校である。学区内にはJR佐倉駅があり、寺崎、大崎台、六崎などの古くからある地域に加えて、近年では寺崎北という新興住宅地の開発が進み、人口が徐々に増加している地域である。また学区周辺は、広大な田畑を含め、自然に囲まれた地域となっており、児童は虫取りやザリガニ釣り、草花遊びなどの自然に触れる機会も多く、明るくのびのびと生活できる環境が整っている。校内では年間を通じて、「なかよしタイム」という全学年が参加する縦割り班による活動があり、6年生を中心にみんなでなかよく取り組んでいる。児童は、明るく素直であるが、自分から挨拶することや誰かに何かを伝えることがうまくできない様子が日々の生活からうかがえる。自分の思いや考えをうまく伝えられなかったり、相手の気持ちを察することができなかつたりして、トラブルになることも少なくない。これは、語彙力や表現力の乏しさからくるものではないかと考えられる。学習面では、きちんと取り組もうとする児童が多いが、自分で文章を考えたり、思いや考えを発表したりすることには苦手意識を持っている。また、わからないことがあると粘り強く取り組みめない児童も少なくない。

本校では、令和3年度より国語科について「話す・聞く」を中心に研究を始め2年目に入る。昨年度、令和3年度、研究を始めるにあたり、児童に「話す・聞く」ことに関する実態調査をしたところ、寺崎小学校では、約3割の児童が多くの人前で話すことに抵抗のある状況が見られた。一方で多くの児童が聞くことに関しては、「できている」と自覚している。このことから「話すこと」には抵抗があり、「聞くこと」については、できているという結果から表現する力に自信のない児童が少なくことがうかがえる。

職員にも寺崎小学校の児童に足りない力を調査したところ、表現力を挙げている教師は少なかった。特に、「話すこと」については、できていないと感じている学級担任が多く見られた。また、授業中の様子から自ら考えようとする姿勢についても、まだまだ足りない様子がうかがえる。

以上のことを踏まえ、表現する力を高めていきたいと考えた。そのために、まずは自分の考えをしっかりとめるように、読書活動を通して思ったことを話させたり、表現に必要な語彙を増やすツールの活用(辞書、タブレット等)に丁寧に組み合わせていきたい。また、自分が発信するため相手の話を聞く姿勢も身につけさせていきたい。そのために話のポイントを抑えて聞く方法を授業だけでなく、国語タイムを使って育てていく。そして、表現力向上のために国語科以外の全ての学習活動において、児童の関心意欲を高めるための学習内容や進め方等の工夫に努める。これらのことを念頭に置き、自分から進んで学ぼうとする意識を育むとともに、表現力の向上につながるようにしていきたい。

3 めざす児童像

- | | |
|------|---|
| ○低学年 | …事柄の順序を整理して、声の大きさや速さに気を付けて話せる児童
…話し手が知らせたいことや聞きたいことを集中して聞き、話の内容を捉えて感想を持つことができる児童 |
| ○中学年 | …話の中心がわかるように理由や事例を挙げながら、言葉の抑揚や強弱などを工夫して話せる児童
…必要なことを記録や質問などをしながら聞き、話し手が伝えたいことや聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことのできる児童 |
| ○高学年 | …自分の考えや思いが伝わるように事実と感想を区別しながら文章を構成し、資料を活用しながら話せる児童
…話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えて聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることのできる児童 |

4 研究仮説

仮説1

考えをもつための場を工夫すれば、自ら考える力を高めることができるであろう。

<設定の理由>

「自ら考える力」の育成には、単に知識や技能を習得するだけではなくそこに至るまでに、子どもたちの「なぜ」、「どうして」といった疑問を大切にしていかなければならない。子どもたちが進んで学習に取り組めるように、学習内容の中で自ら課題を見つけ疑問をもてるような学習計画の設定と考えをもつために必要な情報の取捨選択、それをまとめる方法を明示することが重要である。

<手だて>

- (1) 学習内容の目的と見通しが明確になるよう、子どもたちが興味関心をもてる題材設定の工夫（身近なことや経験したこと等）をする。
- (2) 単元のゴール（見本や掲示物の提示等）を明示したりして、考えをもつための手順を明確にする。
- (3) ワークシート、思考ツール、付箋紙、ホワイトボードなどを活用し、思考を整理できるよう可視化する。
- (4) 考えを整理するために、学習の足跡がたどれる掲示物を作ったり、学習単元に関連する本を陳列したりする。

仮説2

伝え合う言語活動を工夫すれば、自ら表現する力を高めることができるであろう。

※input するための「聞く」だけでなく、output するための「聞く」も表現力向上のために念頭に置く。

<設定の理由>

自分の考えや思いを表現するためには、確かな知識と技能のもとに整理された思考と判断が必要不可欠となる。そのため語彙力を高め基礎基本を確立し、自分の考えをもつことが重要となる。この際に、児童に自分の考えをまとめる過程で相手意識をもって伝え合うことを意識させていきたい。それを実現するために必要となる言語活動については、児童が主体的に活動に取り組めるように方法を明示する。そして、他者と考えを共有し、比較することで様々な考え方に触れることで、自らの表現に取り入れて表現力の向上に繋げていく。

<手だて>

- (1) 話し方、聞き方がわかるような具体的な掲示物（声のものさし、話しの型、聞くための型など）を作る。
- (2) 主体的に表現活動に臨めるように発表の手順、方法（ワークシート、掲示物など）を提示する。
- (3) 話し合い、交流の場（ペア、少人数、全体など）を提示する。
- (4) 話し合いや伝え合いの場での役割分担を明示する。
- (5) 発表や提案、インタビュー、ディベートなど、具体的な活動方法や表現方法を提示する。

II 授業実践



第1学年

1 単元名 ペープサートを使って会話をしよう。

【教材名：えを 見て おはなしをしよう】

2 (1) 評価規準 (6/7)

- ・尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合することができる。〔思考・判断・表現〕
- ・進んで話題を決め、学習課題に沿って少人数で話し合おうとしている。〔主体的に取り組む態度〕

(2) 仮説との関連

<仮説1>

考えをもつための場を工夫すれば、自ら考える力を高めることができるであろう。

学習過程を明確にし、それぞれの活動に入る前にその時間のモデルを示すことで、本時のめあてを全体で共通理解することができると考えた。そこで、学習過程が確認できるような計画表を掲示したり、教師が教科書とは別の絵を使い、役になりきって自己紹介や即興会話をしているモデルを動画で流したりした。また、登場人物の設定を考えるために、挿絵からたくさんの情報が収集できると良いと考えた。そこで、ワークシートを活用して、始めは登場人物の一人に焦点を絞り、次第に挿絵全体へと範囲を広げていくことで、考えを形成できるようにした。そうすることで、活動内容をイメージし、うさぎになりきって自己紹介したり、対話したりすることができると考えた。

<仮説2>

伝え合う言語活動を工夫すれば、自ら表現する力を高めることができるであろう。

事前アンケートの結果から、話すことに苦手意識をもっているのは、合っているか分からず不安だったり、恥ずかしかったりという自信の無さが大きいからだと考えた。そこで、挿絵から情報収集したこと、そこから予想できる動きをワークシートに記録し、これから話題にすることを整理できるようにした。その記録をもとにペアやグループなどの少人数で話す経験を積んだ。そして、その様子をお互いに見せ合い、良かったところを伝え合うことで、自信を持ってみんなの前で話すことができると考えた。また、ペープサートを活用して、役になりきれるようにした。

(3) 授業実践

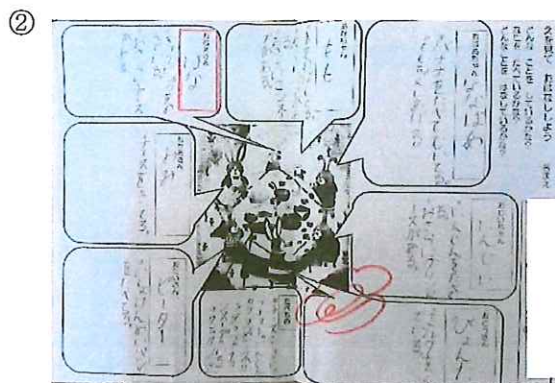
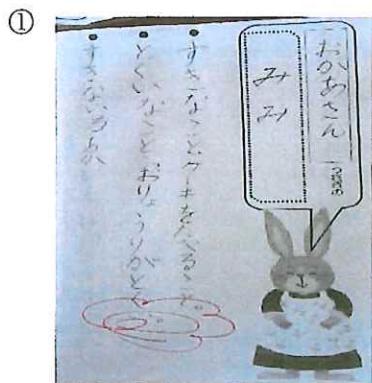
時配	学習活動と内容	・指導・支援 ○評価	資料
3	1 本時の学習とめあてを確認した。 【見いだす】 ・学習計画表を見て、本時では、ペアでの対話をみんなの前で発表することを確認した。	・学習計画表とモデルの提示をし、本時の学習内容を児童が抑えられるようにした。	学習計画表
	うさぎになりきって、おはなしはっぴょうかいをしよう。		

2	2 発表するとき、発表を聞くとき気を付けることを確認した。 ・掲示物をもとに、話し方や聞き方のルール、対話を続けるポイントを確認した。	・全体の前での話す声の大きさや速さを意識したり、対話を続けたりすることができるように、掲示物を提示し確認した。	話し方・聞き方、対話の続け方の掲示物
3	3 それぞれが選んだうさぎになりきって、ペアで対話をした。 【自分で取り組む】 ・ワークシートをもとにペアで対話をした。	・机間指導をし、ペープサートの動かし方や対話が続いているかを確認した。 ・対話が続かないペアには、ワークシートから共通の話題を見つけたり、質問の話題型を確認したりするように声をかけた。	
7	4 小グループになり、ペアでの対話を見せ合あった。【広げ深める】 ・対話している様子をお互いに見せ合い、良いところやアドバイスを伝え合った。 〔予想される児童の反応〕 ・目線が下がっていたから、聞いている人の方を向いたほうがいいよ。 ・声の大きさがちょうどよかったよ。 ・聞きやすい速さでよかったよ。	・声の大きさや速さ、声色など、見るときの視点を与え、よかったところやアドバイスの的確にできるようにした。 ・お互いに動画を撮り、自分でも目線やペープサートの動かし方を確認させた。 ○尋ねたり応答したりするなどしてするなどして、少人数で話し合うことができる。 (動画・観察) <仮説②> ペアでの対話の様子を見せ合い、良いところを伝え合う。	
2 2	5 みんなの前で発表した。 【まとめあげる】 ・ペアでそれぞれの対話を発表した。 ・発表した後に、聞き手から感想を述べたり、質問をしたりした。	・発表した後に、聞き手から感想や質問をすることをあらかじめ伝え、聞くときの視点を与えた。 ○進んで話題を決め、学習課題に沿って少人数で話し合おうとしている。 (発言・観察)	タブレット 6台 聞く時の視点を示した掲示物
3	6 本時の学習を振り返った。 ・うさぎになりきって対話できたか、感想を伝えたり、質問したりすることができたかなどを振り返った。 〔予想される児童の反応〕 ・大きな声で発表できたよ。 ・うさぎになりきってはなしたよ。	・振り返りシートで、声の大きさや速さに気を付けて話せたか、発表を聞いて質問や感想が伝えられたか、うさぎになりきって話すことができたかを振り返った。	

3. 成果と課題

(1) 成果

- ・始めに登場人物の一人に焦点を絞り、次第に挿絵全体へと範囲を広げてワークシートに記録していったことで、登場人物の設定を考えたり、話題にすることを整理したりすることができ、話題を広めることができた。(仮説2) 写真①②



- ・ペアからグループへと活動を徐々に広げていき、対話している様子を互いに見せ合い、動画で撮影し合うことで、自分たちで確認することができ、振り返りがしやすくなり、みんなの前で話すことに抵抗が少なくなった。(仮説2) 写真③④



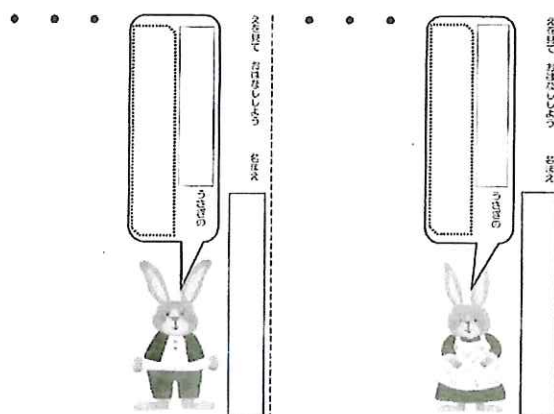
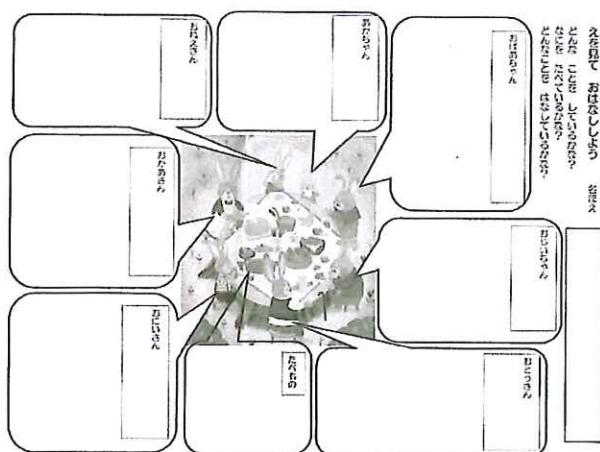
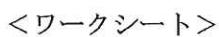
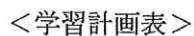
- ・ペーパーサートをを用いたことで、役割が明確になり、そのうさぎになりきって自己紹介したり、対話したりすることができた。(仮説2) 写真⑤



(2) 課題

- ・聞き方の視点を「声の大きさ」「話す速さ」など、抽象的な表現をしてしまったため、聞き手からの感想も抽象的なものが多かった。動画などでモデルを提示するなど、より具体的に明示する必要があった。
- ・話すことに苦手意識がある児童同士がペアになることもあり、対話が成り立たないペアもあった。授業だけでなく、日常的に表現する機会をもっと設ける必要があると感じた。
- ・板書の情報量が多くなってしまった。内容を精選すべきであった。

<揭示物>



第3学年

1 単元名 すじみちを立てて発表しよう 【教材名：たからものしょうかいをしよう】

2 本時の指導（4／6）

（1）評価規準

- ・相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えることができる。〔思考・判断・表現〕
- ・話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。〔思考・判断・表現〕
- ・必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えを、もつことができる。〔思考・判断・表現〕

（2）仮説との関連

<仮説1>

考えを持つための場を工夫すれば、自ら考える力を高めることができるであろう。

まず、単元の課題のゴールを明確にするために、指導者の言語活動の例示や学習過程を計画表を作成する。

誰かに何かを伝えるためには、まず自分の考えや思いをもつことが必要である。児童にとって身近で、興味関心をもて、一人一人が必要な情報を集めやすい「自分の宝物」を話題に選ぶことで、自分の考えを明確にできると考えた。

また、クラスの友達に「宝物」を分かりやすく紹介するためには、「宝物」という理由や経験を整理する必要がある。そこで、話の中心をはっきりさせ、理由や知識の相互関係を考え、話すことを明確にするための「話すことメモ」を作成する。メモは、全ての児童が話の中心をはっきりさせ、話すことができるように、児童の実態に応じて2段階用意する。その「話すことメモ」を使って、グループに話し、話の内容や話し方について、意見や感想をもらい、振り返る場を設けることで、自分の考えがさらに深まると考える。

<仮説2>

伝え合う言語活動を工夫すれば、自ら表現する力を高めることができるであろう。

クラス全体に話す前に、少人数のグループで話し合い、自分の話を振り返る活動に取り組む。より振り返りがしやすいように、「聞き取りメモ」を作成する。「聞き取りメモ」は、話し手が振り返りやすいように、話の内容（中心、順番）や話し方を項目ごとにメモがとれるようにする。また、タブレット端末で話している様子を、グループで互いに動画で撮り合う。そして、後の振り返り時にタブレットで記録した動画を話し手も実際に見ることで、話の内容や話し方を聞き手と一緒にリアルに振り返ることができるようにする。このことにより、話し手は、より具体的に自分の話を振り返ることができると思う。

(3) 授業実践

時配	学習活動と内容	・指導・支援 ○評価	資料
2	1 前時までの学習内容を確認する。 ・前時までに作成した「話し方メモ」を使って、友達と協力して、宝物を紹介することを確認する。	・宝物を紹介する目的を確認し、本時は聞き手の役割の大きいことを確認する。	掲示物
5	2 本時の学習と本時のめあてを知る。 ・友達と交流してよりよいスピーチにすることを確認する。 ・指導者による例示（モデル）を見る。 【見いだす】	・よりよいスピーチにするために、意見を交流することが、学習のめあてであることを確認する。 ・黒板の掲示物で、「話しの内容、話し方」の気を付ける点を確認する。 ・例示を参考に、「話しの内容、話し方」の気を付ける点を具体的にし、確認する。	
	グループでスピーチを聞き合い、自分の発表を見直すことができる。		
15	3 自分の宝物をグループの友達に発表する。 【自分で取り組む】 ・話すことメモを参考にして、発表し合う。 ・交代で、タブレット端末に発表の様子を録画し合う。	・発表する前に黒板の掲示物で、「話しの内容、話し方」の気を付ける点をもう一度、確認するように声掛けをする。 ・自分の「話すことメモ」に従って、話を進めることを確認する。 ○相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えることができる。 (話すことメモ 観察) ○話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。 (話すことメモ 観察)	タブレット 話すことメモ
15	4 自分の発表をグループの友達と話し合い、意見や感想を聞く。 【広げ深める】	〈仮説①〉 児童の実態に応じて2段階スピーチメモを用意し、話の中心をはっきりさせ、話すことができるようにする。	

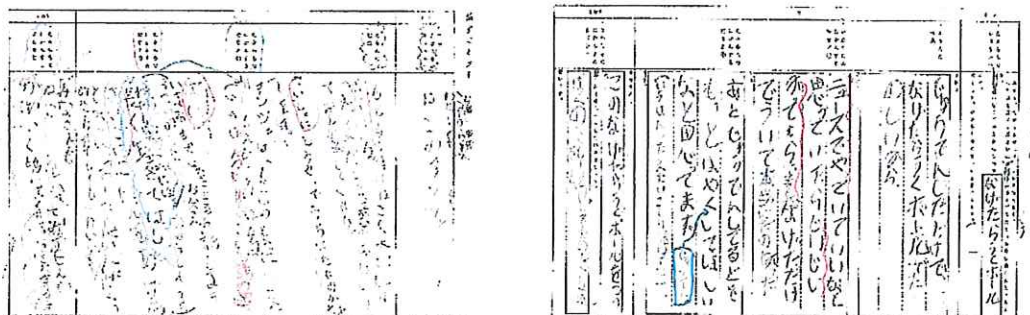
	・タブレットに記録した話してる様子をグループの友達と振り返る。 [予想される児童の反応] ・話の中心が分かりやすくてよかった。 ・宝物である理由（説明）が分かりにくいので、もっと詳しくした方がよい。 ・話す順序を変えた方がよい。 ・この部分は、大切なところなので、もう少し強くいった方がよい。 ・話し方に変化がないので、抑揚をつけて話したほうがよい。 ・話が変わるときや写真を見るときには、もう少し間を取った方がよい。	・意見交換をする前に黒板の掲示物で、「話しの内容、話し方」の気を付ける点をもう一度、確認するように声掛けをする。 ・友達の意見や感想で大切だと思うことは、「聞き取りメモ」にメモするように助言する。 ・話し合うときは、「話すことメモ」も用意し、必要なら「話すことメモ」にも、赤青鉛筆で書き込んでよいことを助言する。 ・考えることが難しい児童には、「話を聞いて、どう思ったか。」「話は分かりやすかったか。」「声の強弱はどうだったか。」など考える視点を与えるように助言する。 ○必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えを持つことができる。 (聞くことメモ 観察)	タブレット 話すことメモ 聞き取りメモ 赤青鉛筆
8	5 自分の聞き取りメモを振り返り、話すことメモを見直す。 【まとめあげる】 ・グループの友達からもらった意見や感想を参考に「話すことメモ」を推敲する。	〈仮説②〉 振り返りやすいように、話の内容や話し方を明確にした聞き取りメモを作成する。タブレット端末で記録し、それを基に振り返ることで話し手がリアルに自分の話の内容や話し方を聞き手と一緒に振り返ることができるようにする。 ・「聞き取りメモ」や見て、友達にももらった感想や意見を想起し、話すことメモを赤青鉛筆で推敲するように助言する。 ・話す順番が変わった場合には、話すことメモに順番が番号を振るなど順番がわかるように記すように助言する。 ・次時に、話し合ったことを参考にメモを引き続き推敲し、練習をすることを伝える。	話すことメモ 聞き取りメモ 赤青鉛筆

3 成果と課題

(1) 成果

- ・題材設定が身近で、興味関心のあるものだったので、どの児童も自分の大切な宝物を生き生きと発表できていた。(仮設1)
- ・実態合わせた2段階の「話すことメモ」を用意したことで、ほとんどの児童がスムーズにメモを書き、話しまで進むことができていた。(仮設1) 写真①

①

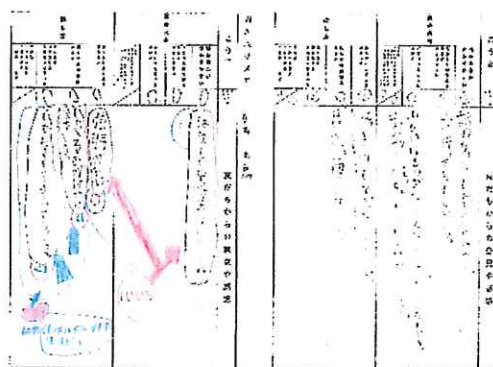


- ・「掲示物」や「聞くことメモ」で、「話の内容」、「話し方」ともに、どこに気を付ければよいか示したことで、児童にとっては、どこに視点を置けばよいかわかりやすかった。そのことが、自分のスピーチだけでなく、グループの話し合いや全体発表の場での友達への意見や感想にも生かされていた。(仮設2) 写真②③

②



③



- ・タブレットを使用したことで、自分のスピーチを振り返ることができ、話の修正がスムーズに進んだ。(仮設2) ④⑤

④



⑤



- ・ 動画や友達からもらった意見や感想を個人で振り返る時間をもっと充分に取れば、もっと振り返りが効果的になったのではないか。(仮説 1)
- ・ 聞き手が、「聞く視点をもっとわかる工夫」、さらに相槌を打つなどの「聞き方の工夫」等、聞き手を育てる工夫が必要だった。(仮説 2)

話すことメモ

[illegible]

結すことンモ ンモ 名前	強弱分かんない いづれの方にもなる まさしく しんじやうすうさう かん	友だちからの意見や感想
-----------------	---	-------------

第5学年

1 単元名 伝わるように構成を考えよう 【教材名：「町じまん」をすいせんしよう】

2 本時の指導（6／10）

（1）評価規準

・推薦するもののよさが伝わるように話の構成を工夫し、聞き手が納得するように話している。

〔思考・判断・表現〕

（2）仮説との関連

<仮説1>

考えをもつための場を工夫すれば、自ら考える力を高めることができるであろう。

単元の導入で「4年生に千葉県の町じまんをすいせんしよう」という学習課題を提示した。そうすることで、目的意識や相手意識をもたせ、学習の見通しをもてるようにした。また、教師が推薦スピーチの手本を示し、話の構成や話型など、発表の仕方についてイメージをもてるようにした。児童が推薦するものを決める際には、千葉県にまつわる人やもの、場所、行事等を写真で例示したり、児童の生活経験から紹介したいものを引き出したりして、自己選択できるようにした。そうすることで、児童に考えを形成させ、自ら学習に取り組めるようにした。

<仮説2>

伝え合う言語活動を工夫すれば、自ら表現する力を高めることができるであろう。

自らの考えを整理するために、「お話メモ」を書かせた。これを使って、まず自分の推薦したいものを明確にし、それに3つの理由をあげることで話の構成を意識できるようにした。そして、推薦する言語活動では、タブレット端末で作成した資料を示しながら、聞き手が納得するように話すことができるようにした。一方で、聞き手も相手の話の構成や話し方の工夫に気付くことができるように、「聞き取りメモ」を書かせた。「聞き取りメモ」の内容を基に、話し手のスピーチのよかったところを伝えることができるようにした。

（3）授業実践

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	1 本時の学習のめあてを知る。 ④ 話の構成を工夫して、「町じまん」をすいせんしよう。 ・班の中で「町じまん」を一人一人発表し、感想を伝え合うことを知った。 ・<よい話し方>を確認した。 ①「～を推薦します」 ②「推薦する理由は、○つあります。一つ目は～、二つ目は～」 ③「以上の○つの理由から、～を推薦します」	・学習計画表を示しながら、本時の学習に関心をもたせた。 ・班の中で順番に発表し、質問や感想を伝え合ったり、クラスでよい推薦の仕方をしていた友達を紹介したりするという、本時の学習の流れを知らせた。 ・前時で学習した「結論を先に述べる」「理由をナンバリングする」「まとめて推薦するものをもう一度述べる」という話し方を想起させた。	学習計画表 短冊

		<仮説1> 話の構成や話型など、発表の仕方についてイメージをもてるようにした。	
24	・友達の発表を聞いて、工夫しているところを「聞き取りメモ」に書くことを確認した。 【見いだす】 2 グループで、一人ずつ発表した。 ・<聞き方のルール>を確認した。 ①友達の発表を最後まで聴く ②目・耳・心で聴く ③うなずきながら聴く ④拍手をする ・「お話メモ」を基に一人ずつ発表した。 【自分で取り組む】	・「聞き取りメモ」を配付し、記入の仕方を説明した。 ・感想を伝える際の視点になることを知らせた。 ・一人当たりの発表時間は1分。その後2分間で「聞き取りメモ」を書き、1分間質問や感想を伝え合う時間にすることを知らせた。 ・友達が発表しているときは、聞き方のルールを守って聞くように助言した。 ・発表が早く終わった児童については、机間指導しながら、内容を繰り返したり、その場で追加したりして話すように促した。 ○推薦するもののよさが伝わるように話の構成を工夫し、聞き手が納得するように話していたか。(観察) [思・判・表] <仮説2> 「お話メモ」を見ながら、推薦するものを伝えることができたようにした。	大型タイマー 聞き方の 掲示
8	3 友達の発表を聞いてよかったところを全体で共有した。 ・「聞き取りメモ」を基に、グループの友達のよい点を発表した。 <予想される児童の反応> ・よい話し方を意識していたから、話が分かりやすかった。 ・推薦するもののよさが伝わった。 【広げ深める】	・「聞き取りメモ」を基に、グループの友達のよかったところを全体で共有し、称賛するように助言した。	
3	4 本時の学習を振り返る。 ・自分の発表についてノートに振り返りを書いた。 【まとめあげる】	・友達からの「聞き取りメモ」を基に、自分の伝え方を振り返るように助言した。	

3 成果と課題

(1) 成果

- ・推薦スピーチの話型を短冊で確認することで、児童は話し方のイメージをもち、話の構成を意識して話すことができた。(仮説1) 写真①
- ・タブレット端末を使用し、写真を指差しながら話すことで、推薦したいもののよさをより効果的に伝えることができた。(仮説2) 写真②
- ・「お話メモ」を基に、相手に伝わるように話の構成を工夫して話すことが理解されていた。(仮説2) 写真③

①



②



③



(2) 課題

- ・本時の最後に、「聞き取りメモ」を基に、自らの話し方の良かった点と改善点を振り返る時間が取れなかった。自らの表現力を磨くには、聞き手の視点から自分の話し方を考える必要があった。
- ・全体的によく話すことはできていたが、聞き手を注目させる工夫が物足りなかった。より聞き手を巻き込むような話し方を習得させていく必要があった。
- ・テーマの幅が広がったため、友達が扱った「町じまん」によっては、自分に馴染みがなく共感することが難しかった児童もいたと考えられる。児童により身近な佐倉市をテーマとして扱うことで、互いに「町じまん」として共感できる場面が増えたのではないかと考えられる。

4 資料

学習計画表

最後	10	8・9	7	6	5	4	3	2	1
ポスターを作ろう				「町じまん」をすいせんしよう					
4年生に作ったポスターを見せ、千葉県のじまんをすいせんしよう。	作ったポスターを読み合い、感想を伝え合おう。	構成や表現を工夫して、ポスターを作ろう。	ポスター作りの目的を知り、学習の見通しをもとう。	〈中間発表についてふりかえろう〉	班の中で自分の「町じまん」をすいせんしよう。	発表の練習を行い、よい話し方・聞き方を考えよう。	すいせんする理由を考え、話しメモを作ろう。	すいせんするものを決め、調べよう。	「紹介」と「すいせん」のちがいを考え、すいせんの大事な点をつかもう。
	/	/	/		/	/	/	/	/

伝わるように構成を考えよう

名前()

学習計画表『町のじまんをすいせんしよう』

お話メモ

「お話メモ」		名前 ()		
まとめ	理由③	理由②	理由①	すいせんするもの
(後) 昔にしたら感心して思われる 「以上」の「運命」から「歴史」へ 「い」の「い」へ「い」へ	(前) 「風」朝顔すかんなどよく「風」 「風」朝顔すかんなどよく「風」	(中) 「風」朝顔すかんなどよく「風」 「風」朝顔すかんなどよく「風」	(前) 「風」朝顔すかんなどよく「風」 「風」朝顔すかんなどよく「風」	(後) 「風」朝顔すかんなどよく「風」 「風」朝顔すかんなどよく「風」

聞き取りメモ

聞き取りメモ (名前 ①)		！ ②	○	一
聞き取ること		！ ②	○	一
一 すいせんするもの ()		！ ②	○	一
二 結論を先に言っていたか。		！ ②	○	一
三 理由をナンバリングしていたか。		！ ②	○	一
四 話し方で工夫していたところ		！ ②	○	一
五 納得したところ (印象に残ったところ)		！ ②	○	一

III 研究の成果と課題

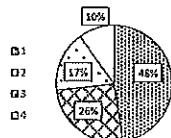


III 研究の成果と課題

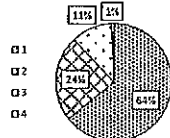
<意識調査からの結果から>

国語科 話すことと聞くことアンケート低学年

1. ふだんの生活でお友達に、自分の思ったことや考えたことを話すことができていますか。
- ① できている ② ややできていない ③ あまりできていない ④ できていない



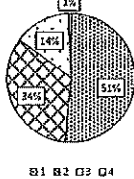
4月



2月

2. 話す内よりのじゅんじょを考えて話すことができていますか。

- ① できている ② ややできていない ③ あまりできていない ④ できていない



Q1 Q2 Q3 Q4

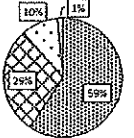
2月

指導者の実態把握

- ・「はじめに」「まず」「つぎに」「さいごに」などの言葉を意識し、できるようになってきた。
- ・内容をまとめることが難しく、まだ、順序考えるまでいたっていない児童も少なくない。

3. 話すときに、声の大きさやはやさに気をつけて話すことができていますか。

- ① できている ② ややできていない ③ あまりできていない ④ できていない



Q1 Q2 Q3 Q4

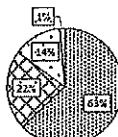
2月

指導者の実態把握

- ・意識して、話す児童が増えている。また、話す前に声掛けをすると、より児童が意識して取り組む様子が見られた。
- ・話し方・聞き方の掲示物を掲示し、話すとき意識させたことで、できるようになった児童が増えた。

4. 話し合いのとき、お友だちの話をうけて、こうしたいしながら話すことができていますか。

- ① できている ② ややできていない ③ あまりできていない ④ できていない



Q1 Q2 Q3 Q4

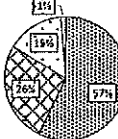
2月

指導者の実態把握

- ・国語を中心に話し合い活動がしっかりできてきた。
- ・グループの話し合いに慣れ、話を聞いてから、話をするのが身に付いてきた。
- ・ペア活動では、話し合い活動が盛り上がりつつあるのだが、それを、数名のグループ活動で生かすのが難しいと感じた。
- ・相手の話の途中で話したり、最後まで聞けなかったり、している児童が少ないうえに、支援が必要である。

5. 話のたいせつなところを考えて、話を聞くことができていますか。

- ① できている ② ややできていない ③ あまりできていない ④ できていない



Q1 Q2 Q3 Q4

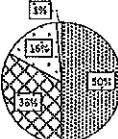
2月

指導者の実態把握

- ・ほとんどの児童が内容を理解しながら、聞くことができるようになった。
- ・個人差が大きいように感じる。個別の支援の手立てが必要である。

6. 自分の聞きたいことをはっきりさせて、聞くことができていますか。

- ① できている ② ややできていない ③ あまりできていない ④ できていない



Q1 Q2 Q3 Q4

2月

指導者の実態把握

- ・自分の聞きたいことをはっきりさせて聞くというのは難しく、集中して聞くことから指導していった。
- ・話すことよりも聞くことが、低学年には難しいと感じた。

①できている	②ややできていない	③あまりできていない	④できていない		
44	12	9	0	65	1年生
46	21	7	1	75	2年生
90	33	16	1	140	
48%	26%	17%	10%	4月	
64%	24%	11%	1%	2月	

「ややできていない」まで含めると、88%もの児童が、自分の思ったことを、話せていると考えている。これは4月のアンケート74%よりも増えている。「話すこと・聞くこと」に取り組んできたことが、児童の自信に繋がってきていると感じる。

①できている	②ややできていない	③あまりできていない	④できていない		
35	14	15	1	65	1年生
37	33	5	0	75	2年生
72	47	20	1	140	
51%	34%	14%	1%		

順序を教える際、順序を教えることを意識させたり、理由や結果など話すことを経験させて話すなど工夫して指導してきたことにより、児童は「ややできていない」を含めると、85%が「できていない」と考えている。しかし、指導者は「できている」という実態は少なく、話の順序を教える際、順序を教えることによって、引き延ばし指導していく必要がある。

①できている	②ややできていない	③あまりできていない	④できていない		
41	19	4	1	65	1年生
42	22	10	1	75	2年生
83	41	14	2	140	
59%	29%	10%	1%		

「ややできていない」を含めると、88%もの児童が「できていない」と考えている。指導者も同様に考えている。「声の大きさ」、「速さ」を意識して話すことは、中学年の「話の中心を意識して」に繋がる大切な技能である。今後も指導力を工夫したり、児童が話し始める前に適切な声かけをしたり、日常的に意識させていきたい。

①できている	②ややできていない	③あまりできていない	④できていない		
48	8	7	2	65	1年生
40	23	12	0	75	2年生
88	31	19	2	140	
63%	22%	14%	1%		

「ややできていない」を含めると、85%もの児童が「できていない」と考えている。指導者も「ややできていない」と考えているのだが、グループの人数が増えると言葉の遅い児童もいる。トークトレーニングで「おねだり応答したりする活動」を取り入れ、意図的に人数を2人から増やしていくなど、児童の集団で話すことの負担感を減らす工夫など工夫をしていく必要がある。

①できている	②ややできていない	③あまりできていない	④できていない		
47	11	6	1	65	1年生
33	26	15	1	75	2年生
80	37	21	2	140	
57%	26%	15%	1%		

「ややできていない」を含めると、83%もの児童が「できていない」と考えている。指導者も多くが、「ややできていない」と考えている。ただ、個人差も大きいと考えている。話のスピーチなどの自分の興味を持ったところや感じたところを伝える活動を通して、自分の体験と結びつけ聞き、感想を言えるようにしていくなどの活動に日常的に取り組んでいく必要がある。

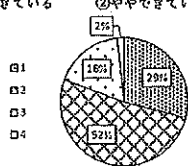
①できている	②ややできていない	③あまりできていない	④できていない		
35	19	10	1	65	1年生
35	27	12	1	75	2年生
70	46	22	2	140	
50%	33%	16%	1%		

5の問と同じく、「ややできていない」を含めると、83%もの児童が「できていない」と考えている。ただ、5の問と異なり、指導者の多くは「できていない」と考えている。5と同様に、日常的に話のスピーチなどの自分の体験と結びつけ聞き、感想を言えるようにしていくなどの活動に日常的に取り組んでいく必要がある。

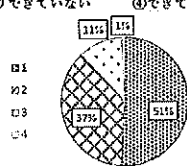
国語科 話すことと聞くことアンケート中学年



1. ふだんの生活でお友達に、自分の思ったことや考えたことを話すことができますか。
- ① できている ② ややできている ③ あまりできていない ④ できていない



4月



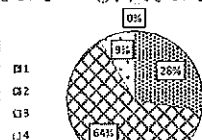
2月

①できている	②ややできている	③あまりできていない	④できていない		
34	17	5	1	57	3年生
25	26	8	0	59	4年生
59	43	13	1	116	
29%	52%	18%	2%	4月	
51%	37%	11%	1%	2月	

「ややできている」まで含めると、88%もの児童が、自分の思ったことを、話せていると考えている。これは4月のアンケート81%よりも増えている。「話すこと・聞くこと」に取り組んできたことが、児童の自信に繋がってきていると感じる。

2. 話の中心を明らかにして話すことができますか。

- ① できている ② ややできている ③ あまりできていない ④ できていない



2月

指導者側の実態把握

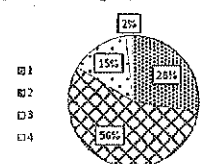
- ・話す内容にはよるが、8割程度の児童はできているように思う。できていない児童は、話がまとまらず、長くなりがちで、中心がぼやけてしまっていることが多い。
- ・思ったことをつらつと話している児童が少なくない。「～と思います。わけは～です。」などパターン化すればできる。

①できている	②ややできている	③あまりできていない	④できていない		
17	36	4	0	57	3年生
15	38	6	0	59	4年生
32	74	10	0	116	
28%	64%	9%	0%		

「できている」と考えている児童は28%と少ない。自信のなさやうかがえる。指導者も「できている」という実感はない。話の中心を冒頭にもっていき、そのことに合わせた理由や事例などをその後話すと、話をパターン化するなど、引き続き工夫して指導していく必要がある。

3. 話す場面に応じて、言葉のよくようや強弱、間の取り方に気をつけて話すことができますか。

- ① できている ② ややできている ③ あまりできていない ④ できていない



2月

指導者側の実態把握

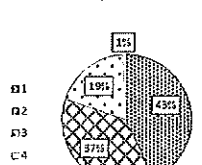
- ・話すことに抑揚をつけたり強弱をこめたり、間を取りながら話をするのは難しいように感じる。声の大きさ、速さに気を配って話すのが現状。精一杯のようにも感じる。
- ・抑揚、強弱、間の取り方など効果的な話し方をするのは難しい。効果的な話ができる指導や支援を考えていかなければいけない。

①できている	②ややできている	③あまりできていない	④できていない		
17	33	7	0	57	3年生
15	32	10	2	59	4年生
32	65	17	2	116	
28%	56%	15%	2%		

「できている」と考えている児童は28%と少ない。自信のなさやうかがえる。指導者も「できている」という実感はない。児童が話し始める前に、「声の上げ下げ」や強弱すべき「大切な言葉の息継ぎ」などの適切な声掛けをし、常日頃から抑揚や強弱、間の取り方の大切さを認識させることが必要である。

4. 自分と相手の考えの同じところや、ちがうところを考えながら話し合うことができますか。

- ① できている ② ややできている ③ あまりできていない ④ できていない



2月

指導者側の実態把握

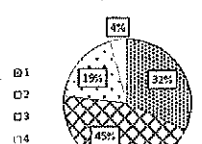
- ・相手との類似点、相違点を理解し、話し合いを進めている児童が、グループいれば、話し合うことができているようである。個人差が激しく意識付けさせる手立てを考える必要がある。
- ・意識して授業の中で話すこと（発言）はできるが、話し合いの中となると、難しいように感じる。

①できている	②ややできている	③あまりできていない	④できていない		
28	22	6	1	57	3年生
22	21	16	0	59	4年生
50	43	22	1	116	
43%	37%	19%	1%		

「ややできている」を含めると、81%もの児童が「できている」と考えている。しかし、指導者も「できている」という実感はない。「話す」「聞く」の二つの活動が並行することで、児童にとっては新しい活動となっているようだ。。各教科や後期や個人など調べたことを分かりやすく話すことを意識させ、また、その話を記録して聞くなど、共通点や相違点が明らかになる活動を自覚的に行っていくなど工夫して取り組んでいくことが必要である。

5. 話の先を予そうして話を聞くことができますか。

- ① できている ② ややできている ③ あまりできていない ④ できていない



2月

指導者側の実態把握

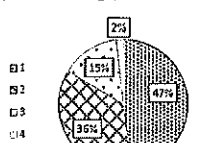
- ・話をしっかり聞いている児童は、その後の発言や行動から、できている児童は多い。話をしっかり聞ける児童を増やすことが必要である。
- ・授業の不足からできていない児童がいる。

①できている	②ややできている	③あまりできていない	④できていない		
17	29	8	3	57	3年生
20	23	14	2	59	4年生
37	52	22	5	116	
32%	45%	19%	4%		

「できている」と考えている児童が32%と少ない。しかし、指導者の多くは「ややできている」と考えている。引き続き、聞いたことを発表する機会を設けるなどの学習に取り組んでいきたい。また、6の問と同様であるが児童の不足から聞けていない児童については、トークトレーニングなどで指導していく必要がある。

6. 話の中心をおさえて話を聞くことができますか。

- ① できている ② ややできている ③ あまりできていない ④ できていない



2月

指導者側の実態把握

- ・個人差はあるが、授業やスピーチ等のその他言語活動音読の様子から窺ねでている。
- ・授業の不足からできていない児童がいる。

①できている	②ややできている	③あまりできていない	④できていない		
32	18	5	2	57	3年生
23	24	12	0	59	4年生
55	42	17	2	116	
47%	36%	15%	2%		

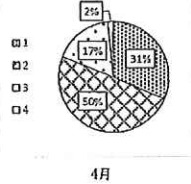
「できている」と考えている児童が「ややできている」も含めると83%もある。指導者の多くも「ややできている」と考えている。引き続き、どのような目的で聞くのか、自分が聞いたことは何かなどをよく確かめようことを意識させていきたい。また、5の問と同様、児童の不足から聞けていない児童については、トークトレーニングなどで指導していく必要がある。

国語科 話すことと聞くことアンケート高学年

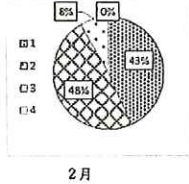


1. 普段の生活でお友だちに、自分の思ったことや考えたことを話すことができますか。

- ① できている ② ややできている ③ あまりできていない ④ できていない



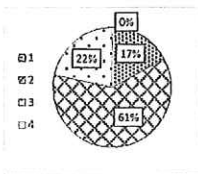
4月



2月

2. 相手に伝わりやすいように話の内容を組み立てを考えて、話すことができますか。

- ① できている ② ややできている ③ あまりできていない ④ できていない



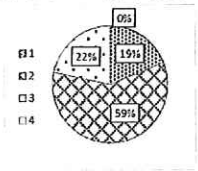
2月

指導者の実態把握

- ・話す準備がしっかりしてあげられる。
- ・朝のスピーチなど順序立てて、話す児童が増えてきた。
- ・順序立てて話の内容を組み立てられる機会を授業や朝のスピーチ等の日常生活の中で作っていくことが大切だと思った。

3. 資料等を活用して、補足説明や伝えたいことを強調するなどして、話すことができますか。

- ① できている ② ややできている ③ あまりできていない ④ できていない



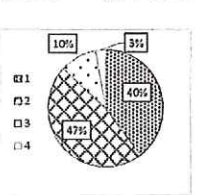
2月

指導者の実態把握

- ・話す内容が、あらかじめ決まっており、入念な準備の下に資料を活用して、分かりやすく話すことはできる。
- ・聞き手から知りたいところを質問されれば、自分の話し足りない部分や分かりにくかったところに気づき話すことはできる。

4. 話し合い活動では、相手の考えを取り入れて、自分の考えを話すことができますか。

- ① できている ② ややできている ③ あまりできていない ④ できていない



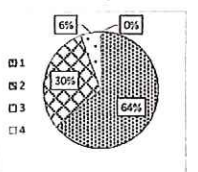
2月

指導者の実態把握

- ・相手の話は、しっかり聞いている様子ではあるが、内容によっては、相手の考えを理解するのに、時間がかかり、直ぐに自分の考えをもつことができず、話し合いができない児童が少なくない。
- ・話し合いの流れが決まっていれば、相手の考えを取り入れ、話し合いができる。

5. 自分の話したいことをわきまを、他の人の話を聞くことができますか。

- ① できている ② ややできている ③ あまりできていない ④ できていない



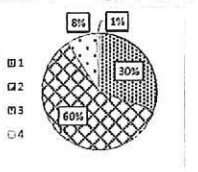
2月

指導者の実態把握

- ・相手の話を聞いて、新たな考え方や気付いたことをノートに追記している様子が見られるようになった。
- ・以前に比べ、全体的に相手の話を聞いて、疑問に思ったことや感想を話すことができるようになってきている。
- ・うなづき、相槌、メモを取りながら等、よく話が聞いている様子である。

6. 自分の考えをよりよく話すために、相手の考えを取り入れることができますか。

- ① できている ② ややできている ③ あまりできていない ④ できていない



2月

指導者の実態把握

- ・授業中の話し合い活動など相手の意見を受け入れ、自分の意見や立場を変えることができる児童が増えてきた。
- ・聞いて取り入れているが、よりよく話すということは意識されていないように感じる。

①できている	②ややできている	③あまりできていない	④できていない		
22	17	3	0	42	5年生
46	51	9	0	106	6年生
31%	50%	17%	2%	4月	
43%	48%	8%	0%	2月	

「ややできている」まで含めると、91%の児童が、自分の思ったことを、話せたと考えている。これは4月のアンケート81%よりも増えている。「話すこと・聞くこと」に取り組んできたことが、児童の自信に繋がってきていると感じる。これは、全学年に言えることである。

①できている	②ややできている	③あまりできていない	④できていない		
9	38	17	0	64	5年生
9	27	6	0	42	6年生
18	65	23	0	106	
17%	61%	22%	0%		

「できている」と答えている児童は17%と少なく、自信のなさやうかがえるが、指導者には「できている」という実態があるようだ。興味関心のあることや身近なことを話す、朝のスピーチの時間などで、話の組み立てをする機会を日常的に設け、取り組んだことが成果として表れてきているのだと考えられる。

①できている	②ややできている	③あまりできていない	④できていない		
11	39	14	0	64	5年生
9	24	9	0	42	6年生
20	63	23	0	106	
19%	59%	22%	0%		

「できている」と答えている児童は19%と少なく、自信のなさやうかがえる。指導者も「できている」という実態はない。指導者は、資料そのものを発表することはできるのだが、補足説明、強調など「資料を活用する」ということには、至っていないと感じている。聞き手や話す目的を意識させ、分かりやすく話すための資料の活用であることを認識させていきたい。

①できている	②ややできている	③あまりできていない	④できていない		
22	31	9	2	64	5年生
20	19	2	1	42	6年生
42	50	11	3	106	
40%	47%	10%	3%		

「ややできている」を含めると、87%の児童が「できている」と考えている。しかし、指導者には「できている」という実態は少ない。相手の意見を聞いて、形式的に話すことはできるのだが、相手の考えを取り入れるには、至っていない。相手の考えを取り入れるためには、話し合い活動で「～という意見もあったが」、「～という考えもあるけれど」などの表現を用いるなど互いの立場が明確になるような工夫をしていく必要がある。

①できている	②ややできている	③あまりできていない	④できていない		
40	20	4	0	64	5年生
28	12	2	0	42	6年生
68	32	6	0	106	
64%	30%	6%	0%		

「できている」と答えている児童が「ややできている」も入ると94%もある。指導者の意図としても「できている」という実態があるようだ。児童は「聞くこと」に関しては、「話すこと」より興味関心を持って取り組んでいることが分かる。積極的に、話し手から情報を受け、また、引き出すようとしている姿が見られた。引き続き指導していきたい。

①できている	②ややできている	③あまりできていない	④できていない		
14	42	7	1	64	5年生
18	22	2	0	42	6年生
32	64	9	1	106	
30%	60%	8%	1%		

「ややできている」を含めると、90%の児童が「できている」と考えている。しかし、指導者には「できている」という実態は少ない。5の問にも書いたが、児童は「聞くこと」に関しては、「話すこと」より興味関心を持って取り組んでいる。集めた情報を自分の考えと比較して、共通点や相違点を整理したり、共通や納得したりしたことを自分の考えとしてまとめるには至っていないと考えられる。

<意識調査からの結果から> ○良かった点 ●課題と考えられる点

- 普段の生活では、自分の思ったことを話せている
- 児童も指導者（教職員）も声の大きさや速さには、気を配って話すことができていると
考えている
- 児童も指導者（教職員）もスピーチやトークトレーニングなどで話の組み立てをする機会を設けた
ことで順序立て話ができていると考えている
- 話すことについて抵抗をもっている児童は少ない
- 友達の話聞くことに関しては、好きと思っている児童が多い
- 話し方については、意識して取り組んでいる児童も多くなってきたが、声掛けなどより児童
が意識して取り組めるようにすることがまだ、必要である
- 語彙の不足から、児童は話の内容が理解できていないと考えている指導者が少なくなく、語
彙力の向上が必要である
- 聞いて、取り入れてはいるが、それをどう生かすかが課題と児童も指導者も考えている

(IN PUT から OUT PUT)

<仮説に係る成果と課題>

仮説 1

○成果

- ・教師がモデルを提示したり、資料や動画等を効果的に提示したりすることで、単元のゴールが明確になり、
児童が学習に見通しをもって臨むことができた。
- ・発達段階に合わせて話型を提示することで、児童が話し方のイメージをもち、話の構成を意識して話すこ
とができた。
- ・自分の考えや思いを話す時、ワークシート等で表現方法を明示し、常に根拠を添えて伝えさせることで「相
手に伝わる話し方」意識できるようになった。お互いに考えがわかり話し合い活動が活発になった。

○課題

- ・話し合う、聞き合うことが活発になるような学習単元や学習内容の精選が、まだまだ必要である。
- ・教師のモデルは、もっと精練し、児童に提示する必要がある。
- ・グループでの話し合い活動では、全員参加することができたが、発言に偏りがあった。人数や話し合いの
視点、場の設定をもっと精査する必要がある。

○成果

- ・話すポイントを明確にすることで、児童が考えを整理しやすくなり、表現する力を高める意欲につながった。
- ・タブレットを使用し、写真を指差しながら話すことで、自分の思いや考えをより効果的に伝えることができた。
- ・役割やめあてを示すことによって、一人一人が目的意識を持って、話したり、聞いたりする活動に取り組めた。

○課題

- ・話型を示すことで、児童が見通しをもつことができた半面、型に縛られ対話の種類に広がりがなかった
- ・板書の情報量が多くなり、児童が何を話したらよいのかわかりづらくなってしまった。内容を精選する必要がある。
- ・聞き手を注目させる話し方の工夫がまだ足りない。言葉のキャッチボールができるようにするために、聞き手も伝えたいような手立てを考える必要があった、話し方はより洗練されていく必要がある。そのためには聞き手の視点を意識することが必要である。
- ・表現力を磨くためにも、聞き手も「聞く視点をもつ」、相槌を打つなどの「聞き方」を身に付けるなど、聞き手を育てることも必要である。